

[抄録様式]

公益財団法人 8020 推進財団

平成 24 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：当院における包括的口腔ケアシステムを利用した老人介護施設への介入

2. 申請者名：トヨタ記念病院 歯科口腔外科 町田純一郎

3. 実施組織：トヨタ記念病院 歯科口腔外科 トヨタ記念病院 感染症科 豊田加茂歯科医師会

4. 事業の概要：当院は、平成 23 年度歯科保健活動助成金を受けて入院患者 842 名を対象とした口腔ケア実施による医学的評価と当院における口腔管理システムについて第 27 回日本環境感染学会、第 27 回日本静脈経腸栄養学会で報告するとともに、日本環境感染学会雑誌に投稿した。この中で口腔管理の重要性を示しているが、全身状態（熱発、入院日数）との比較検討では、有意な結果を得ることが出来なかった。そこで平成 24 年度は、口腔ケア対象者の医学的背景を均一化し、データの精度を向上させた上で様々な全身状態との検討を行う事を目的として、唾液性状、口腔細菌種に注目し、口腔環境との詳細な検討を行った。

5. 事業の内容

1) 口腔ケア実施による医学的評価

当院では、平成 21 年より入院患者に対する口腔ケアを包括的に実施している。平成 23 年度歯科保健活動助成金を受けて入院患者 842 名を対象とした口腔ケア実施による医学的評価と当院における口腔管理システムについて第 27 回日本環境感染学会、第 27 回日本静脈経腸栄養学会で報告するとともに、日本環境感染学会雑誌に投稿した（校正中）。この中で口腔ケアと全身状態（熱発、入院日数など）の比較検討を試みるも、口腔ケアを実施した対象患者の基礎疾患が、呼吸器疾患、消化器疾患、神経・筋疾患、腎臓疾患、循環器疾患など多岐にわたり、有用な結果を得ることが出来なかった。

そこで対象患者の医学的背景の統一を図るため、評価対象者を当院に併設するトヨタ自動車健康保険組合老人保健施設ジョイステイ入所者とした。昨年度、準備委員会（当院歯科口腔外科、感染症科）を組織し、当院倫理委員会の審査を経て、本年度、歯科衛生士による専門的口腔管理を開始、唾液緩衝能検査、口腔内細菌検査、歯垢染め出し検査、歯周ポケット検査を実施して、評価を行った。

唾液 pH 測定は、口腔内から採取した対象者の唾液を pH meter で測定した。口腔内細菌数は、舌背部を綿棒で擦過し、菌数測定用乾式簡易培地に塗布し、37℃で培養し、細菌数を計測した。また、年度後半からは細菌数測定装置を導入した。さらに舌背部を擦過した捲綿糸を細菌培地に塗布し、生育した細菌の同定を行った。歯垢染め出し検査は、口腔ケアを行う前に歯垢検出液を歯面に塗布し、染め出された歯面の数を計測した。歯周ポケット検査は、残存歯の歯周ポケットをポケット探針で測定し、その平均を計算した。口腔ケアおよび各検査はスケジュールに沿った日程で行った。

2) 当院での試みを学会等で報告し口腔ケアの重要性を広め、入院前後の口腔ケア強化に繋げる

口腔環境をよりよい状態で保つことは、入院中のみならず入院前後の口腔管理の重要性があげられる。当施設では健診、病院、老人保健施設などライフステージに合わせたサポート体制を整え、それぞれに合わせて口腔環境を管理するシステムをとっている。そこで、平成 24 年 11 月 27 日に UK-Japan Joint Symposium and Working-Group Meeting on Oral and Head Neck Cancer にて「Oral management for cancer patients at Toyota Memorial Hospital」と題して、当院で実施している口腔ケアについてスライドで説明するとともにケア前後での PCR 値、細菌数、細菌種、pH 値、歯周ポケットの推移等を報告した。また、平成 24 年 11 月 11、12、13 日アラバマ州立大学医学部附属病院を視察し海外における口腔ケアの実情を視察し意見交換を行った。

6. 実施後の評価（今後の課題）

1) 専門的口腔管理を実施し、PCR 値、歯周ポケット測定値において改善が示されたことから有用である。一方、口腔内細菌数の増加や病原性細菌の途中出現について詳細な検討を要する。今後症例数を増やすとともに、プロトコルを改良し、最も効率的な口腔ケアの方法を確立していきたい。

2) 学会報告や意見交換を行うことで当院の口腔ケアシステムの問題点、課題を見直す事ができたが、さらに改良を加えて科学的根拠に基づいたアセスメント法やケア方法の導入へとつなげていきたい。